

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限（2012年4月10日設定）	
運用方針	南アフリカ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて南アフリカランド建ての債券に実質的な投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要運用対象	ベビーフンド	南アフリカ債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	南アフリカランド建ての債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第2計算期末までの間は、収益の分配は行いません。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

# Navio 南アフリカ債券ファンド



第66期（決算日：2017年10月18日）  
 第67期（決算日：2017年11月20日）  
 第68期（決算日：2017年12月18日）  
 第69期（決算日：2018年1月18日）  
 第70期（決算日：2018年2月19日）  
 第71期（決算日：2018年3月19日）



### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「Navio 南アフリカ債券ファンド」は、去る3月19日に第71期の決算を行いましたので、法令に基づいて第66期～第71期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



## 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用フリーダイヤル **0120-151034**  
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近30期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数)		債組入比率	債券先物比率	純資産額
	(分配落)	税込 分配	期中 騰落	J P モル ガ ン G B I - E M (円ベース)	南アフリ カ 期 中 騰 落 率			
	円	金	率			%	%	百万円
42期(2015年10月19日)	9,094	45	4.4	413.97	3.6	94.9	—	288
43期(2015年11月18日)	8,379	45	△ 7.4	385.57	△ 6.9	94.3	—	266
44期(2015年12月18日)	7,423	45	△ 10.9	342.33	△ 11.2	91.9	—	241
45期(2016年1月18日)	6,249	45	△ 15.2	291.87	△ 14.7	95.7	—	204
46期(2016年2月18日)	6,873	45	10.7	323.76	10.9	95.2	—	229
47期(2016年3月18日)	6,820	45	△ 0.1	325.86	0.6	95.0	—	228
48期(2016年4月18日)	6,895	45	1.8	333.67	2.4	94.8	—	231
49期(2016年5月18日)	6,398	45	△ 6.6	309.42	△ 7.3	94.0	—	218
50期(2016年6月20日)	6,517	45	2.6	311.95	0.8	94.7	—	226
51期(2016年7月19日)	7,059	45	9.0	344.95	10.6	95.9	—	244
52期(2016年8月18日)	7,313	45	4.2	360.55	4.5	95.8	—	253
53期(2016年9月20日)	7,044	45	△ 3.1	349.54	△ 3.1	97.5	—	246
54期(2016年10月18日)	6,986	45	△ 0.2	349.65	0.0	97.6	—	243
55期(2016年11月18日)	7,133	45	2.7	362.03	3.5	95.9	—	245
56期(2016年12月19日)	7,823	45	10.3	399.70	10.4	94.2	—	270
57期(2017年1月18日)	8,020	45	3.1	411.41	2.9	94.6	—	281
58期(2017年2月20日)	8,241	45	3.3	425.53	3.4	94.8	—	291
59期(2017年3月21日)	8,647	45	5.5	452.48	6.3	95.5	—	319
60期(2017年4月18日)	7,744	45	△ 9.9	403.48	△ 10.8	95.1	—	283
61期(2017年5月18日)	7,922	45	2.9	422.58	4.7	96.8	—	291
62期(2017年6月19日)	8,267	45	4.9	436.93	3.4	95.7	—	303
63期(2017年7月18日)	8,217	45	△ 0.1	442.70	1.3	95.5	—	302
64期(2017年8月18日)	7,835	45	△ 4.1	429.14	△ 3.1	94.9	—	290
65期(2017年9月19日)	8,037	45	3.2	437.34	1.9	95.8	—	301
66期(2017年10月18日)	7,859	45	△ 1.7	429.43	△ 1.8	97.1	—	293
67期(2017年11月20日)	7,206	45	△ 7.7	398.91	△ 7.1	95.6	—	271
68期(2017年12月18日)	7,927	45	10.6	439.74	10.2	96.2	—	298
69期(2018年1月18日)	8,659	45	9.8	486.04	10.5	95.7	—	323
70期(2018年2月19日)	9,004	45	4.5	511.35	5.2	94.3	—	349
71期(2018年3月19日)	8,675	45	△ 3.2	498.05	△ 2.6	93.4	—	350

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) J PモルガンG B I - E M 南アフリカ(円ベース)は、J PモルガンG B I - E Mグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)のサブインデックスです。J PモルガンG B I - E Mグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)とは、J . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマーゼンジン債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマーゼンジン債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。著作権はJ . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年月日	基準価額		(参考指数) J P モ ル ガ ン G B I - E M 南アフリカ		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
		円	騰落率	(円ベース)	騰落率		
第66期	(期首) 2017年9月19日	8,037	—	437.34	—	95.8	—
	9月末	7,901	△ 1.7	429.67	△ 1.8	96.0	—
	(期末) 2017年10月18日	7,904	△ 1.7	429.43	△ 1.8	97.1	—
第67期	(期首) 2017年10月18日	7,859	—	429.43	—	97.1	—
	10月末	7,417	△ 5.6	409.30	△ 4.7	96.4	—
	(期末) 2017年11月20日	7,251	△ 7.7	398.91	△ 7.1	95.6	—
第68期	(期首) 2017年11月20日	7,206	—	398.91	—	95.6	—
	11月末	7,457	3.5	413.01	3.5	95.4	—
	(期末) 2017年12月18日	7,972	10.6	439.74	10.2	96.2	—
第69期	(期首) 2017年12月18日	7,927	—	439.74	—	96.2	—
	12月末	8,646	9.1	484.14	10.1	95.3	—
	(期末) 2018年1月18日	8,704	9.8	486.04	10.5	95.7	—
第70期	(期首) 2018年1月18日	8,659	—	486.04	—	95.7	—
	1月末	8,644	△ 0.2	488.60	0.5	94.7	—
	(期末) 2018年2月19日	9,049	4.5	511.35	5.2	94.3	—
第71期	(期首) 2018年2月19日	9,004	—	511.35	—	94.3	—
	2月末	9,059	0.6	516.50	1.0	93.6	—
	(期末) 2018年3月19日	8,720	△ 3.2	498.05	△ 2.6	93.4	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせるので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について (第66期～第71期：2017/9/20～2018/3/19)

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ11.6% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。



- ・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因

債券の利子収益を享受したことや債券価格が上昇したことに加え、南アフリカランドが対円で上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

## 投資環境について

(第66期～第71期：2017/9/20～2018/3/19)

市況の推移  
(当作成期首を100として指数化)

(注) 現地日付ベースで記載しております。

## ◎債券市況

- ・南アフリカの債券市場では、金利は短中期ゾーンでほぼ横ばいの一方、長期ゾーンで低下しました。
- ・当作成期首から2017年11月中旬にかけては、10月中旬の内閣改造でズマ大統領が複数の閣僚を更迭するなど政局の不透明感が高まり、同国に対する投資家センチメントが悪化したことや、財政収支見通しの悪化などを背景に格下げリスクが高まったことなどから金利は上昇しました。その後、当作成期末にかけては、2018年2月中旬に大統領に就任したラマポーザ氏による反汚職や経済改革路線への期待が高まったことや、2月下旬に財務省により発表された2018年度予算案で付加価値税の引き上げを含め中期的な財政収支見通しの改善が示されたことから、金利は低下に転じ、当作成期を通じてみると短中期ゾーンでほぼ横ばい、長期ゾーンで低下して終わりました。

### 為替市況の推移 (当作成期首を100として指数化)



#### ◎為替市況

- ・南アフリカランドは対円で上昇しました。当作成期首から2017年11月中旬にかけては、政局の不透明感の高まりなど同国への投資家センチメントが悪化し、南アフリカランドは対円で下落基調となりました。その後、当作成期末にかけてはラマポーザ氏による改革路線への転換が好感され、南アフリカランドは対円で上昇に転じ、当作成期を通じてみると南アフリカランドは対円で上昇して終わりました。

### 当該投資信託のポートフォリオについて

**i** 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

#### <Navio 南アフリカ債券ファンド>

- ・南アフリカ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて南アフリカランド建ての債券に実質的な投資をしました。

#### <南アフリカ債券マザーファンド>

基準価額は当作成期首に比べ12.4%の上昇となりました。

- ・南アフリカランド建ての債券に投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行い、当作成期を通じて債券現物の組入比率は高位を維持しました。
- ・流動性などを勘案し、国債のみのポートフォリオを維持しました。
- ・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）は、インフレ見通しの改善などから2017年7月に利下げが実施され、国内景気下支えに配慮した追加利下げが実施されると判断し、当作成期首から10月下旬にかけては、参考指数比長めの範囲でコントロールしました。その後、米国税制改革期待などを背景とした米金利上昇に加え、10月中旬の内閣改造でズマ大統領が複数の閣僚を更迭するなど政局不透明感が高まったことなどから、2018年2月下旬にかけては、参考指数比中立を維持しました。作成期末にかけては、ラマポーザ新大統領による汚職・経済対策への期待感の高まりや2月下旬発表の2018年度予算案では、財政収支改善に向けた姿勢が示され、格下げリスクは低下したと判断し、参考指数比長めとしました。
- ・債券の利子収益を享受したことや債券価格が上昇したことに加え、南アフリカランドが対円で上昇したことなどがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

(ご参考)

**利回り・デュレーション**

作成期首 (2017年9月19日)

最終利回り	8.9%
直接利回り	8.5%
デュレーション	8.0年

作成期末 (2018年3月19日)

最終利回り	8.5%
直接利回り	8.3%
デュレーション	8.5年

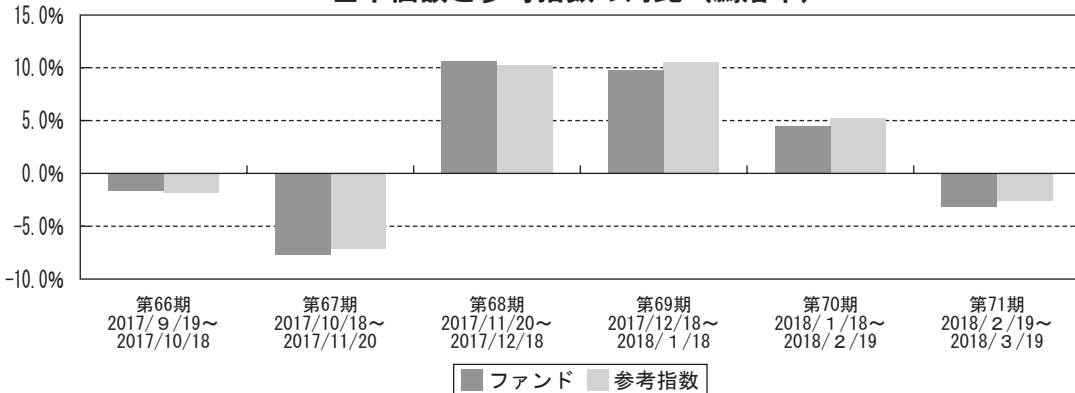
- ・数値は債券現物部分で計算しております。
- ・最終利回りは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。

**当該投資信託のベンチマークとの差異について**

(第66期～第71期：2017/9/20～2018/3/19)



ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

**基準価額と参考指数の対比 (騰落率)**

- ・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。上記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はJPモルガンGBI-EM南アフリカ（円ベース）です。

## 分配金について

**i** 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額的水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
	2017年9月20日～ 2017年10月18日	2017年10月19日～ 2017年11月20日	2017年11月21日～ 2017年12月18日	2017年12月19日～ 2018年1月18日	2018年1月19日～ 2018年2月19日	2018年2月20日～ 2018年3月19日
当期分配金	45	45	45	45	45	45
（対基準価額比率）	0.569%	0.621%	0.564%	0.517%	0.497%	0.516%
当期の収益	45	45	45	45	45	45
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	2,093	2,098	2,104	2,119	2,136	2,139

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### <N a v i o 南アフリカ債券ファンド>

#### ◎今後の運用方針

- ・南アフリカ債券マザーファンド受益証券の組入比率を高位とする方針です。

### <南アフリカ債券マザーファンド>

#### ◎運用環境の見通し

- ・南アフリカの貿易相手国として重要な中国の景気減速懸念の後退やグローバル経済の堅調さなどから、外部環境は比較的良好な状況が継続しやすいとみています。
- ・一方で、南アフリカの国内経済においては、中間所得層の増加などを背景に底堅い個人消費の伸びが期待されるものの、若年層を中心とした失業率の高さなどを背景に景気回復の速度は緩慢であるとみています。但し、2017年12月以降は、ラマポーザ新大統領による反汚職や、経済・財政改革など景気回復に向けた期待も高まっています。
- ・今後は、経常収支面の改善などのマクロファンダメンタルズの動向を注視します。また、国内の政治状況や格付会社動向については留意が必要です。

#### ◎今後の運用方針

(組入比率)

- ・安定した利子収益の確保をめざし、引き続き高位組み入れを継続する方針です。

(種別構成)

- ・当面は国債中心の運用とする方針です。

(デュレーション)

- ・南アフリカの今後の金融政策や政治動向、グローバルな景気動向などを睨みながら、機動的に操作する方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年9月20日～2018年3月19日)

項 目	第66期～第71期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率× (作成期中の日数÷年間日数)
( 投 信 会 社 )	(28)	(0.338)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(28)	(0.338)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.021)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.034	(b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 3 )	(0.031)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	60	0.731	
作成期中の平均基準価額は、8,187円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年9月20日～2018年3月19日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第66期～第71期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
南アフリカ債券マザーファンド	千口 25,279	千円 33,674	千口 20,375	千円 25,841

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年9月20日～2018年3月19日)

## 利害関係人との取引状況

## &lt;N a v i o 南アフリカ債券ファンド&gt;

該当事項はございません。

## &lt;南アフリカ債券マザーファンド&gt;

区 分	第66期～第71期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 26	百万円 —	% —	百万円 20	百万円 2	% 10.0

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行です。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2017年9月20日～2018年3月19日)

作成期首残高(元本)	当作成期設定元本	当作成期解約元本	作成期末残高(元本)	取引の理由
百万円 300	百万円 —	百万円 —	百万円 300	当初設定時における取得

## ○組入資産の明細

(2018年3月19日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	第65期末		第71期末	
	口 数		口 数	評 価 額
南アフリカ債券マザーファンド	千口 250,941		千口 255,845	千円 344,649

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2018年3月19日現在)

項 目	第71期末	
	評 価 額	比 率
南アフリカ債券マザーファンド	千円 344,649	% 97.6
コール・ローン等、その他	8,306	2.4
投資信託財産総額	352,955	100.0

(注) 南アフリカ債券マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産(341,955千円)の投資信託財産総額(346,544千円)に対する比率は98.7%です。

(注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 南アフリカランド=8.84円			
------------------	--	--	--

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第66期末	第67期末	第68期末	第69期末	第70期末	第71期末
	2017年10月18日現在	2017年11月20日現在	2017年12月18日現在	2018年1月18日現在	2018年2月19日現在	2018年3月19日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	295,748,194	274,031,909	300,675,774	325,554,506	351,308,710	352,955,774
コール・ローン等	1,027,450	1,216,798	963,528	1,143,398	1,366,169	6,402,716
南アフリカ債券マザーファンド(評価額)	292,977,277	271,279,141	297,994,415	322,705,172	348,282,933	344,649,743
未収入金	1,743,467	1,535,970	1,717,831	1,705,936	1,659,608	1,903,315
(B) 負債	2,039,970	2,112,122	1,999,897	2,064,011	2,222,802	2,304,983
未払収益分配金	1,681,701	1,697,974	1,695,580	1,681,148	1,744,632	1,818,880
未払解約金	26,264	59,809	—	—	66,813	105,774
未払信託報酬	330,945	353,205	303,346	381,638	410,041	379,103
未払利息	1	2	1	1	1	12
その他未払費用	1,059	1,132	970	1,224	1,315	1,214
(C) 純資産総額(A-B)	293,708,224	271,919,787	298,675,877	323,490,495	349,085,908	350,650,791
元本	373,711,493	377,327,764	376,795,749	373,588,633	387,696,166	404,195,766
次期繰越損益金	△ 80,003,269	△105,407,977	△ 78,119,872	△ 50,098,138	△ 38,610,258	△ 53,544,975
(D) 受益権総口数	373,711,493口	377,327,764口	376,795,749口	373,588,633口	387,696,166口	404,195,766口
1万口当たり基準価額(C/D)	7,859円	7,206円	7,927円	8,659円	9,004円	8,675円

## ○損益の状況

項 目	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
	2017年9月20日～ 2017年10月18日	2017年10月19日～ 2017年11月20日	2017年11月21日～ 2017年12月18日	2017年12月19日～ 2018年1月18日	2018年1月19日～ 2018年2月19日	2018年2月20日～ 2018年3月19日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 20	△ 37	△ 28	△ 43	△ 31	△ 54
受取利息	2	—	—	—	—	—
支払利息	△ 22	△ 37	△ 28	△ 43	△ 31	△ 54
(B) 有価証券売買損益	△ 4,600,950	△ 22,261,909	29,091,976	29,129,034	15,351,167	△11,100,034
売買益	33,235	89,784	29,205,267	29,618,189	15,402,201	55,223
売買損	△ 4,634,185	△ 22,351,693	△ 113,291	△ 489,155	△ 51,034	△11,155,257
(C) 信託報酬等	△ 332,004	△ 354,337	△ 304,316	△ 382,862	△ 411,356	△ 380,317
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 4,932,974	△ 22,616,283	28,787,632	28,746,129	14,939,780	△11,480,405
(E) 前期繰越損益金	△ 49,183,348	△ 55,366,705	△ 79,085,021	△50,809,740	△23,624,962	△10,237,569
(F) 追加信託差損益金	△ 24,205,246	△ 25,727,015	△ 26,126,903	△26,353,379	△28,180,444	△30,008,121
(配当等相当額)	( 29,843,703)	( 30,980,055)	( 31,248,819)	( 31,673,216)	( 34,919,081)	( 39,381,339)
(売買損益相当額)	(△ 54,048,949)	(△ 56,707,070)	(△ 57,375,722)	(△58,026,595)	(△63,099,525)	(△69,389,460)
(G) 計(D+E+F)	△ 78,321,568	△103,710,003	△ 76,424,292	△48,416,990	△36,865,626	△51,726,095
(H) 収益分配金	△ 1,681,701	△ 1,697,974	△ 1,695,580	△ 1,681,148	△ 1,744,632	△ 1,818,880
次期繰越損益金(G+H)	△ 80,003,269	△105,407,977	△ 78,119,872	△50,098,138	△38,610,258	△53,544,975
追加信託差損益金	△ 24,205,246	△ 25,727,015	△ 26,126,903	△26,353,379	△28,180,444	△30,008,121
(配当等相当額)	( 29,848,650)	( 31,000,143)	( 31,254,664)	( 31,688,822)	( 34,974,248)	( 39,448,685)
(売買損益相当額)	(△ 54,053,896)	(△ 56,727,158)	(△ 57,381,567)	(△58,042,201)	(△63,154,692)	(△69,456,806)
分配準備積立金	48,404,264	48,178,665	48,052,957	47,506,434	47,856,235	47,015,882
繰越損益金	△104,202,287	△127,859,627	△100,045,926	△71,251,193	△58,286,049	△70,552,736

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## &lt;注記事項&gt;

①作成期首(前作成期末)元本額 375,088,011円  
 作成期中追加設定元本額 55,647,443円  
 作成期中一部解約元本額 26,539,688円  
 また、1口当たり純資産額は、作成期末0.8675円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は53,544,975円です。

## ③分配金の計算過程

項 目	2017年9月20日～ 2017年10月18日	2017年10月19日～ 2017年11月20日	2017年11月21日～ 2017年12月18日	2017年12月19日～ 2018年1月18日	2018年1月19日～ 2018年2月19日	2018年2月20日～ 2018年3月19日
費用控除後の配当等収益額	1,684,762円	1,846,539円	1,930,202円	2,228,189円	2,334,113円	1,860,627円
費用控除後・繰越大損金補填後の有価証券売買等損益額	—円	—円	—円	—円	—円	—円
収益調整金額	29,848,650円	31,000,143円	31,254,664円	31,688,822円	34,974,248円	39,448,685円
分配準備積立金額	48,401,203円	48,030,100円	47,818,335円	46,959,393円	47,266,754円	46,974,135円
当ファンドの分配対象収益額	79,934,615円	80,876,782円	81,003,201円	80,876,404円	84,575,115円	88,283,447円
1万口当たり収益分配対象額	2,138円	2,143円	2,149円	2,164円	2,181円	2,184円
1万口当たり分配金額	45円	45円	45円	45円	45円	45円
収益分配金金額	1,681,701円	1,697,974円	1,695,580円	1,681,148円	1,744,632円	1,818,880円

## ○分配金のお知らせ

	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
1 万口当たり分配金 (税込み)	45円	45円	45円	45円	45円	45円

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

### 【お知らせ】

①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。

(変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)

(2018年1月1日)

②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

## 南アフリカ債券マザーファンド

### 《第6期》決算日2018年3月19日

[計算期間：2017年3月22日～2018年3月19日]

「南アフリカ債券マザーファンド」は、3月19日に第6期の決算を行いました。  
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第6期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として南アフリカランド建ての債券に投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行います。投資にあたっては、南アフリカの国債、政府機関債、政府保証債ならびに南アフリカランド建ての国際機関債等に投資を行います。金利や物価の動向、経済情勢や投資環境等を勘案してポートフォリオを構築します。デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要運用対象	南アフリカランド建ての債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		( 参 考 指 数 ) J P モ ル ガ ン G B I - E M 南アフリカ		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	(円ベース)	期 騰 落			
	円	%			%	%	百万円
2期(2014年3月18日)	10,292	△ 8.7	370.94	△ 8.8	96.4	—	294
3期(2015年3月18日)	12,035	16.9	432.53	16.6	96.0	—	313
4期(2016年3月18日)	8,938	△25.7	325.86	△24.7	95.3	—	227
5期(2017年3月21日)	12,381	38.5	452.48	38.9	95.7	—	318
6期(2018年3月19日)	13,471	8.8	498.05	10.1	95.1	—	344

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) J P モ ル ガ ン G B I - E M 南アフリカ (円ベース) は、J P モ ル ガ ン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) のサブインデックスです。J P モ ル ガ ン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) とは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		( 参 考 指 数 ) J P モ ル ガ ン G B I - E M 南 ア フ リ カ		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
	円	騰 落 率	(円ベース)	騰 落 率		
(期 首) 2017年3月21日	12,381	—	452.48	—	95.7%	—%
3月末	11,572	△ 6.5	437.44	△ 3.3	96.8	—
4月末	11,434	△ 7.6	416.65	△ 7.9	96.0	—
5月末	11,728	△ 5.3	426.67	△ 5.7	96.3	—
6月末	11,850	△ 4.3	435.90	△ 3.7	96.0	—
7月末	11,804	△ 4.7	433.77	△ 4.1	95.8	—
8月末	11,894	△ 3.9	434.12	△ 4.1	95.6	—
9月末	11,786	△ 4.8	429.67	△ 5.0	96.2	—
10月末	11,139	△ 10.0	409.30	△ 9.5	96.7	—
11月末	11,284	△ 8.9	413.01	△ 8.7	95.7	—
12月末	13,181	6.5	484.14	7.0	95.6	—
2018年1月末	13,264	7.1	488.60	8.0	95.0	—
2月末	13,994	13.0	516.50	14.1	93.8	—
(期 末) 2018年3月19日	13,471	8.8	498.05	10.1	95.1	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ8.8%の上昇となりました。

基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●投資環境について

## ◎債券市況

・南アフリカの債券市場では、金利は低下しました。期首から2017年4月上旬にかけては、3月末に、ズマ大統領がゴードン財務相を解任するなど、政治的不透明感が高まり、格下げリスクが意識されたことから、金利は上昇しました。9月下旬にかけては、発表された消費者物価指数(CPI)が市場予想以上に改善したことや南アフリカ準備銀行が7月の金融政策委員会においてインフレ関連指標や成長見通しを下方修正し、政策金利を7%から6.75%に引き下げることなどを決定したことなどから、金利は概ね低下基調で推移しました。11月中旬にかけては、10月中旬の内閣改造でズマ大統領が複数の閣僚を更迭するなど政局の不透明感が高まり、同国に対する投資家センチメントが悪化したことや、財政収支見通しの悪化などを背景に格下げリスクが高まったことなどから金利は上昇しました。



その後、期末にかけては、2018年2月中旬に大統領に就任したラマポーザ氏による反汚職や経済改革路線への期待が高まったことや、2月下旬に財務省により発表された2018年度予算案で付加価値税の引き上げを含め中期的な財政収支見通しの改善が示されたことから、金利は低下に転じ、期を通じてみると金利は低下して終わりました。

#### ◎為替市況

- ・南アフリカランドは対円で小幅下落しました。期首から2017年11月下旬にかけては、政局の不透明感の高まりなど同国への投資家センチメントが悪化し、南アフリカランドは対円で下落基調となりました。その後、期末にかけてはラマポーザ氏による改革路線への転換が好感され、南アフリカランドは対円で上昇に転じたものの、期を通じてみると南アフリカランドは対円で小幅下落して終わりました。

#### ●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・南アフリカランド建ての債券に投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行い、期を通じて債券現物の組入比率は高位を維持しました。
- ・流動性などを勘案し、国債のみのポートフォリオを維持しました。
- ・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）は、期首においては参考指数比中立としました。インフレ見通しの改善などから2017年7月に利下げが実施され、国内景気下支えに配慮した追加利下げが実施されると判断し、10月下旬にかけては、参考指数比長めの範囲でコントロールしました。その後は、米国税制改革期待などを背景とした米金利上昇に加え、10月中旬の内閣改造でズマ大統領が複数の閣僚を更迭するなど政局不透明感が高まったことなどから、2018年2月下旬にかけては、参考指数比中立を維持しました。期末にかけては、ラマポーザ新大統領

による汚職・経済対策への期待感の高まりや2月下旬発表の2018年度予算案では、財政収支改善に向けた姿勢が示され、格下げリスクは低下したと判断し、参考指数比長めとしました。

- ・債券の利子収益を享受したことや南アフリカの金利が低下したことなどがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

#### ◎今後の運用方針

##### ◎運用環境の見通し

- ・南アフリカの貿易相手国として重要な中国の景気減速懸念の後退やグローバル経済の堅調さなどから、外部環境は比較的良好な状況が継続しやすいとみています。
- ・一方で、南アフリカの国内経済においては、中間所得層の増加などを背景に底堅い個人消費の伸びが期待されるものの、若年層を中心とした失業率の高さなどを背景に景気回復の速度は緩慢であるとみています。但し、2017年12月以降は、ラマポーザ新大統領による反汚職や、経済・財政改革など景気回復に向けた期待も高まっています。
- ・今後は、経常収支面の改善などのマクロファンダメンタルズの動向を注視します。また、国内の政治状況や格付会社動向については留意が必要です。

##### ◎今後の運用方針

###### （組入比率）

- ・安定した利子収益の確保をめざし、引き続き高位組み入れを継続する方針です。

###### （種別構成）

- ・当面は国債中心の運用とする方針です。

###### （デュレーション）

- ・南アフリカの今後の金融政策や政治動向、グローバルな景気動向などを睨みながら、機動的に操作する方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年3月22日～2018年3月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円	%	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	(7)	(0.054)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( そ の 他 )	(0)	(0.004)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	7	0.058	
期中の平均基準価額は、12,077円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年3月22日～2018年3月19日)

## 公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	南アフリカ	国債証券	千南アフリカランド 40,933	千南アフリカランド 38,426

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年3月22日～2018年3月19日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	%
為替直物取引	百万円 33	百万円 —	—	百万円 29	百万円 5	17.2

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行です。

## ○組入資産の明細

(2018年3月19日現在)

## 外国公社債

## (A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
南アフリカ	千南アフリカランド 42,550	千南アフリカランド 37,066	千円 327,666	% 95.1	% —	% 94.3	% 0.5	% 0.3
合 計	42,550	37,066	327,666	95.1	—	94.3	0.5	0.3

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

## (B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄		当 期 末					償還年月日
		利 率	額面金額	評 価 額			
				外貨建金額	邦貨換算金額		
南アフリカ		%	千南アフリカランド	千南アフリカランド	千円		
	国債証券	10.5	SOUTH AFRICA 261221	7,550	8,661	76,566	2026/12/21
		6.25	SOUTH AFRICA 360331	14,000	10,646	94,113	2036/3/31
		6.5	SOUTH AFRICA 410228	11,500	8,631	76,300	2041/2/28
		7.25	SOUTH AFRICA 200115	100	100	892	2020/1/15
		7.75	SOUTH AFRICA 230228	200	202	1,791	2023/2/28
		8.75	SOUTH AFRICA 480228	9,200	8,823	78,001	2048/2/28
合 計						327,666	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

## ○投資信託財産の構成

(2018年3月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 327,666	% 94.6
コール・ローン等、その他	18,878	5.4
投資信託財産総額	346,544	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(341,955千円)の投資信託財産総額(346,544千円)に対する比率は98.7%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 南アフリカランド=8.84円		
------------------	--	--

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年3月19日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	346,544,995
コール・ローン等	6,639,517
公社債(評価額)	327,666,463
未収入金	6,079,976
未収利息	5,447,842
前払費用	711,197
(B) 負債	1,903,323
未払解約金	1,903,315
未払利息	8
(C) 純資産総額(A-B)	344,641,672
元本	255,845,701
次期繰越損益金	88,795,971
(D) 受益権総口数	255,845,701口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,471円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 257,277,389円  
 期中追加設定元本額 40,665,629円  
 期中一部解約元本額 42,097,317円  
 また、1口当たり純資産額は、期末13,471円です。

## ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

N a v i o 南アフリカ債券ファンド 255,845,701円

## [お 知 ら せ]

当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。  
 (変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)  
 (2018年1月1日)

## ○損益の状況 (2017年3月22日～2018年3月19日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	26,454,513
受取利息	26,456,085
支払利息	△ 1,572
(B) 有価証券売買損益	△ 369,047
売買益	10,367,373
売買損	△10,736,420
(C) 保管費用等	△ 175,339
(D) 当期損益金(A+B+C)	25,910,127
(E) 前期繰越損益金	61,257,521
(F) 追加信託差損益金	10,935,040
(G) 解約差損益金	△ 9,306,717
(H) 計(D+E+F+G)	88,795,971
次期繰越損益金(H)	88,795,971

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。